

2024年度 メリー★ポピinz 蕨北町ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

- ・今年度、蕨市の幼保小接続が動き出したことで、自園でも職員の研修を行い、来年度へ向けて動き出す準備を始めることができた。また、研修への意欲もあり、昨年度と比較し受講者が増加した。職員の中に向上心を持つ人が出たことで、周りにも良い影響が出たように思う。
- ・食への関心を高め、調理士と保育士が連携して、畑活動や食育活動を行った。子どもたちも、苦手な物に挑戦しようという気持ちが芽生え、やはり周りに良い影響を与え、次々と頑張ろうという気持ちを持つ子どもが増加した。次年度も継続しつつ、更により良い食事環境の提供を行う。
- ・待機児童の減少とともに、園見学者も減ったように思う。子育て支援も含め、地域へ発信しなければ、自園を知ってもらうこともできないと感じた。次年度は、地域への発信に力を入れ、開かれた園として知ってもらう事に注力したい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を培う。
	実践結果	・毎日の日課を行い、散歩も長距離歩けるよう計画し、健康な体作りを行った。保護者へ薄着をお願いしたが、文化の違いから中々理解してもらえない、厚着する子どももいた。
	次年度方向性	・継続を前提に、保護者会や職員からの声掛けなどで、連携を密にしていく。
2	計画・ねらい	・日々の保育の中で豊かな感性と表現ができるような保育計画を立て、保育内容を充実させる。
	実践結果	・今年度の発表会で、子どもたちが保護者に見てもらおうと、計画・準備・練習して本番に臨んだ。職員の声掛けが良かったのだと感じた。
	次年度方向性	・年長児から年少児へ引き継げるよう、計画をしっかりと立てる。また、全職員が同じ対応が出来るよう、職員の質向上を目指す。
3	計画・ねらい	・子どもの発達援助、生活援助の知識を向上させ、保育の環境構成を充実させる。
	実践結果	・職員の質向上の為、研修を受講し習得した。保育環境の見直しも含め、全職員で当たった。
	次年度方向性	子どもの発達を踏まえ、保育に当たる。職員間での共有や研修受講も継続して行う。
4	計画・ねらい	・子どもも大人も主体性のある行動が出来るようになる。

	実践結果	・主体性と自主性について研修を行い、大人は自ら行動する機会を作ったが、まだ理解できない者も多く、子どもたちへも、どのように声掛けすれば良いかわからず、戸惑いが見えた。
	次年度方向性	・声掛けの方法やタイミングなど、更に研修を重ねていく。理解できた保育者が、率先して動き、他の保育者へ伝えていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	個々の保護者とのコミュニケーションをとりながら、その保護者の子育てに寄り添い援助していく。
	実践結果	お迎え時に保護者と話す機会を作るようになっているが、玄関が狭いためじっくりと話す事が難しい。別室にて個別で話す事もあるが、まだまだ足りない状況である。
	次年度方向性	子育ての悩み等を話せるような場(時間)を作り、保護者にも周知して利用してもらえるようにする。
2	計画・ねらい	日本での就学を考えている保護者が大半であるため、不安要素を出来るだけ取り除き、学校と連絡を密にしていく。
	実践結果	進学先の小学校から、進学するかどうかを聞くまで、状況を追えていなかった。小学校との連携が取れておらず、後手となってしまった。
	次年度方向性	小学校との連携を密にし、各家庭の状況も詳しく聞き取り、子どもだけでなく保護者も安心できるような仕組みを構築する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の実情を踏まえ、子育てをしている保護者に対して、保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行う。
	実践結果	子育て支援として園を開放しているが、平日の利用がほとんどない状況で、土曜日に開催している自然食堂には、何回か来園してもらっている。
	次年度方向性	平日に仕事をされている方へは、土曜日の方が来園しやすい事も踏まえ、次年度も土曜日の開催を加えていく。
2	計画・ねらい	保育園が気軽に遊びに来られる場所になるように、出来るだけ園の様子等を、SNS等を利用して地域へ発信していく。
	実践結果	おたよりだけでは、地域へ発信できていないと感じる。
	次年度方向性	公園等で会った方々におたよりを配ったり、近隣のお店などに出向いたりして、園を知ってもらう。職員の意見なども参考に、広く発信できるように努める。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	3年後・5年後の自分の姿を想像し、目標を立てる。
	実践結果	5年後姿が想像できないという職員が多く、一ヶ月毎の目標を立てることから始めた。毎月、各個人で目標を立てている。
	次年度方向性	毎月の目標は継続し、更に年間目標・3年後・5年後を立てられるよう、個別に面談して、個人に合った目標を立てる。
2	計画・ねらい	園内研修の講師を職員が努め、全体のスキルアップを目指す。
	実践結果	テーマ毎に決められた職員が、毎月研修を行った。資料作成などの準備も出来ていた。知識をアウトプットし、理解できたことと思う。
	次年度方向性	講義の形だけでなく、ディスカッション等を取り入れ、他の職員にもわかりやすい研修のやり方を学ぶ。
3	計画・ねらい	主任・リーダー格の職員の育成を図る。
	実践結果	保育者の質を向上させる為の研修に参加し、研鑽を重ねている。
	次年度方向性	できる限りの研修に参加し、職員の育成に繋げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物の世話を通して、生きることについて考える。 魚や肉の解体だけでなく、様々な体験を通して命を頂く気持ちを忘れず、食する事に興味関心を持つ。
	実践結果	カブトムシや金魚の世話を、子どもたちが積極的に行っていった。魚の解体にも興味を示していた。
	次年度方向性	生き物との関わりをたくさん持ち、興味関心を持てるような計画を立てる。
2	計画・ねらい	給食残渣を計測し、職員全体で園の実情を共有する。残渣を減らすために、子どもたちへ食の大切さを知らせる。
	実践結果	食事時間に栄養の話をすることで、食材に興味を持ち、しっかりと食べる児が増加した。おやつは、食べない児が多かった。
	次年度方向性	職員の声掛けが功を奏している為、昼食時だけでなく、おやつ時も声掛けを行い、食に関心を持ってもらう。

〈6〉必要な会議の実施と討議

1	計画・ねらい	園会議が職員主導で行えるようになる。
---	--------	--------------------

	実践結果	年度後半は、議案収集も出来るようになり、職員主導で行えた。
	次年度方向性	ファシリテーションを全職員が学び、出来るようになる。
2	計画・ねらい	ミーティングを昼礼時間に行う事で時間を有効に使い、午後からの保育に繋げていく。
	実践結果	年度前半は、頻繁にミーティングを行っていたが、後半に入ってから頻度が落ち、必要最低限のみとなった。
	次年度方向性	ミーティングの必要性を理解し、計画性をもって実行できるような体制を作る。

〈7〉 職員の自己向上心を上げる

1	計画・ねらい	職員の目標を明確化し、職員同士が質向上を目指して、進捗を確認していく体制を整える。
	実践結果	毎月各個人で目標を立て、質向上を目指した。今年度は、振り返る時間を設けることが難しかった。
	次年度方向性	継続して、毎月目標を立てる。職員が各自の目標を、隨時確認できるようにし、振り返りの時間を設定する。
2	計画・ねらい	Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、日々の保育を継続的に改善していく。
	実践結果	計画を立て実行する所までは出来ている。振り返りと改善に時間を割けず、次の計画に生かせていない。
	次年度方向性	リーダーが、最後までしっかりと見届ける仕組みを作る。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	48人	48人	48人	48人	48人	240人
年度後半： 10~3月	48人	48人	48人	48人	48人	240人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	177 人	176 人	174 人	168 人	146 人	137 人	174 人	142 人	148 人	120 人	121 人	120 人	1803 人

(解説) 延長保育の時間帯で、18時～19時の預かりが一番多い。19時以降は、ほぼ1～2人で、ゆったりと過ごしている。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	6人	調理員等	1人		
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	栄養士	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会・園内研修(エピソード研修含 む) ・保育の振り返り、次月目標設定、ディスカッショングループワーク
給食運営会議	月1回	調理、食事提供の改善案、ディスカッション クッキングの企画、打ち合わせ 他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証 他
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて、その対応 他
クラス会議	適宜	指導計画の適正、子どもの発達、援助について 他
各係、担当会議	適宜	業務の見直し、改善、企画 他

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健計画の作成及び振り返り、嘱託医へ健診の依頼連絡、当日の手伝い、検体取りまとめ・投函、書類のチェック・ファイリング、室内・戸外のハザードマップ作成・見直し・変更
安全対策係	毎月の避難訓練計画、消防署へFAX、保護者宛お知らせ、玩具破損チェック、室内外の危険箇所チェック、自主点検表準備、事故防止委員会議事進行
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練を行う
食品衛生責任者	保育園の給食、食育に関する取り組み、給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理 他
畠係	ファミリー菜園の申し込み 年間農業計画の遂行状況の確認や整備、畠の管理
生き物係	飼育全般に対する管理
備品係	備品の整理および管理、発注の取りまとめ

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
運動会・生活発表会係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
入卒園式係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
写真・アルバム係	行事ごとの写真の取りまとめ(毎月)、卒園アルバム製作
子育て支援係	地域の方へお知らせの発信、年間予定に基づいた企画、準備 当日の進行、相談の受け答え、書類記入

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<p>・身近な環境に興味や関心をもって関わり、様々な体験を積み重ねることができた。また、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育ったように思う。</p> <p>・異年齢児で活動を行う中で、互いに刺激を受け合いながら自分達で課題を解決する力が身に付き、相手の気持ちに気付くができるよう言葉かけを行った。友だちとの間で様々な葛藤を経験しながら、自分たちで約束やルールを作っていくように促した。</p>
保育参加	<p>4~3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)</p> <p>・今年度の参加者なし</p>
保護者面談および発達相談	<p>4~3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)</p> <p>・要支援児の保護者からの相談</p>
運営委員会	<p>運営委員会を6月21日と11月15日に自園保育室にて実施し、参加した保護者各3名</p> <p>詳細は議事録に記載</p>

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は隨時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	家庭との連携を図りながら、保育者・調理員など全職員がプロとしての専門性を活かしながら、共に食を営む力の基礎を作る。 家族や先生、友達と一緒に楽しい食事の時間にする。 食事にもマナーがある事を知らせる。
	実践結果	保育者と調理士との連携が難しいようで、共有が出来ていない事があつた。また、食事時間に職員が落ち着かず、子どもたちにも影響があるよう感じた。
	次年度方向性	保育者と調理士との連携をしっかりと行い、全職員が同じ行動をとれるようにする。また、食事時間の職員配置と対応を再度検討していく。
2	計画・ねらい	自分たちで栽培し、調理したものを食べることで、食の楽しさ・大切さ、自然の恵み、命の大切さ、食の循環サイクルを知り、いろいろな食材に感謝の気持ちを持って食する。
	実践結果	今年度後半は、自作の肥料を畑に撒くことで、作物の出来が良くなり、子どもたちも食の循環が理解できたのではないかと思う。
	次年度方向性	食の大切さ・命の大切さを知らせ、食事を楽しめるように、計画していきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月11日／11月12日に実施
歯科検診	6月18日に自園会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 毎月20日に自園にて身体測定を実施 ② 6月歯磨き指導月間を実施
流行した感染症	① インフルエンザ、12月園児1名・1月園児12名 ② RS ウィルス、7月園児2名・2月園児1名 ③ 溶連菌、5月園児1名・6月園児1名・7月園児1名・1月園児1名・2月園児1名 ④ 胃腸炎、7月園児1名・2月園児1名 ⑤ ヘルパンギーナ、7月園児1名 ⑥ 手足口病、8月園児1名・9月園児1名 ⑦ 水疱瘡、1月園児1名

	⑤ リンゴ病、11月園児1名 ⑥ 肺炎、5月園児1名・11月園児1名・2月園児1名 ⑦ 流行性角結膜炎、8月園児1名
発作・痙攣等の対応	該当者なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園保育室にてキックオフミーティング研修を受講し 習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
その他保健に関する取組	主に5歳児を対象に性教育指導 新型コロナウィルスおよび他ウィルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月11日、11月12日 歯科健診 各年1回／6月18日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉 実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	棚の上の整理整頓、清掃の他、子どもたちがいつでも気持ちよく生活できるようになっているか、自らが生活することを考えながら清潔な環境を整える。
	実践結果	整理整頓・清掃が苦手な職員が多く、継続して行えていない。
	次年度方向性	清掃時間を設ける等して、園をきれいに使用出来るような体制を作る。
2	計画・ねらい	玩具は発達状態に合わせたものを準備し、いつでも好きな遊び、好きな玩具が使える状態にしておく。 室内環境を都度見直す際、玩具の適正も見直す。
	実践結果	環境構成の見直しを行い、玩具の購入・入れ替えを行い、子どもたちの発達に合わせて変えていった。ワンフロアの為、玩具の配置が難しいが、職員も試行錯誤しながら行っていた。
	次年度方向性	適宜、購入・入れ替えを行っていく。配置の正解はないので、こちらも適宜見直しを加えていく。
3	計画・ねらい	副園庭となっている蕨北町公園とそれ以外の公園の安全面、衛生面(ゴミやタバコの吸殻の始末)など、特に注意すると共に、散歩時も常に環境面に留意する。
	実践結果	公園でのごみ拾いも定着し、子どもたちもゴミがあると教えてくれるようになった。また、危険個所がある場合は、写真に撮り、職員間での情報共有・ハザードマップ記載も行った。
	次年度方向性	継続してゴミ拾いを行い、危険個所の報告・共有を行う。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	全体を通して法人のマニュアルに従って行動する。過去の事例や予測される事故は職員全員周知の上、事故に発展することがないように注意喚起する。しかし、必
---	------	---

		要以上に危険回避をすることは、子どもの「乗り越える力」「生きる力」を損なうことにもなりかねないので、職員全員の総意のもと意識の統一を図る。
2	実践結果	安全管理係を中心に日頃より防犯に対する意識を高める。災害は突然に起こるものなので、日頃からシミュレーションを行い、避難訓練を有効に活用する。
3	実践結果	事故・怪我においては心身共に苦痛を経た子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応えることが重要である。どんな小さな怪我でも保護者に伝え忘れがないようになる。また、前日のどんな小さな怪我(発熱も含む)も登降園ボードに記入することにより、翌日の担当保育者が保護者及び子どもに声を掛け、状況を把握するようとする。
4	実践結果	防犯に対する訓練は1年に2回行っているとはいっても、日々の生活の中で常に意識することが重要である。散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議で話し合い、対応の仕方を共有する。
5	実践結果	光化学スモッグについては、市役所の情報を素早く園内及び園外にいる職員に周知する。特に園外にいる職員に対しては、「素早く日陰に行く」「保育園に戻る」などの対応を考えるよう、日頃から注意する。また、園内に居る場合にも窓を閉めるなど、子ども達の健康状態に留意する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の振り返り

昨年度、実習に来た生徒でした。子どもたちにも好かれており、楽しく過ごさせていたようです。
責任実習とのことで緊張も見られましたが、準備をしっかりと行い当日に挑んでいました。

初めての実習という生徒は、子どもたちと関りを持つことを中心に、楽しい雰囲気で実習にあたっていました。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～26日	日本児童教育専門学校	2人	責任実習
1月21～31日	大宮こども専門学校	1人	観察実習

〈3〉 中高生の受入

実施なし

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 8名	24日 8名	28日 8名	26日 9名	23日 7名	27日 8名	25日 9名	22日 9名	27日 9名	24日 9名	21日 11名	21日 11名
テーマ別研修	26日 8名	24日 8名	28日 8名	26日 9名	23日 7名	27日 8名	25日 9名	22日 9名	27日 9名	24日 9名	21日 11名	21日 11名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月1・5日	株式会社ポピinz プロフェッショナル	埼玉県保育士等 キャリアアップ研修	1名	有
9月9日～ 11月18日	株式会社ポピinz プロフェッショナル	埼玉県保育士等 キャリアアップ研修	9名	有
12月26～ 1月18日	株式会社ポピinz プロフェッショナル	埼玉県保育士等 キャリアアップ研修	7名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	該当なし											

〈4〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ育成計画

新卒採用者や異動職員が加わる事で、良い影響をもらえたようで、職員同士のコミュニケーションが取れていた。今までは、クラス毎に行っていた事もあり、情報共有という点でも連携が崩れていたが、今年度は送迎時の保護者対応にも力を入れ、情報共有する大切さを知ることができた。

また、連絡帳やタイムライン等で間違った文法や言葉遣いがあり、次年度は、職員間で浸透するまで研修等で学習していく。

まだ子どもの発達や自主性など、意図を理解できていない保育者もあり、今後どのような研修を経て身に付け、実践していくのかを考えていく。

会議に於いては、職員がしっかりと準備をし園内研修に挑んでくれました。次年度は、今年度と同様に知識を得るだけでなく、ファシリテーションを学び、会議を活性化する術も身に付けてもらいたいです。

8. 地域交流

〈1〉 今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアーやシニア交流を積極的に行い、色々な方々との交流を心掛けました。銭湯では、来館すると「今日も来たのね」と声を掛けて下さる方が増え、子どもたちも自然と会話していました。次年度も、継続していきたいと考えています。

〈2〉 実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：わらび公園にて 参加延べ人数：12名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：交番、パン屋、八百屋、西友、ダイソー、花屋、ドラッグストア、リサイクルショップ、神社、魚屋、肉屋、お茶屋等
世代間交流	12月24日にアイサービスにてクリスマス会を実施
異年齢交流	7月24日に自園にて小学生との交流を実施
シニア交流	月1回 アイサービス施設訪問 実施
銭湯でお風呂の日	月2回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉 今年度の振り返り

蕨市子ども未来課が、市内小学校へ働きかけてください、架け橋プログラムが動き出しました。それに伴い、自園でも小学校との連携を進め、小学生との交流の場を増やしていった。次年度へ向けて、小学生はもちろん、小学校教諭との連携を進めていきたい。

〈2〉 具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月28日	北小学校 2年生	20名	町探検（当園来園）	子ども間交流
7月24日	北・東小学校 1年～5年生	5名	小学生と遊ぼう（当園保育室）	子ども間交流
1月24日	北小学校	4名	連絡会（北小学校多目的室）	職員間交流
2月17日	中央小学校	2名	連絡会（電話）	職員間交流
2月26日	北小学校 1年～5年生	60名	授業参観・校内案内（北小学校）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

9月に要支援児が入園。転園前の園在籍時から療育施設を利用しており、自園入園後に保護者から療育施設を使用する旨連絡あり。その後、施設職員が来園し、該当児の様子を確認、施設長・担任と情報を共有。支援の方向性を探っていく方向で進める。

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

・9～3月に計7回開催 参加者：各9名

担任から現状と今後の対策を共有し、全職員が同じ対応を取れるようにしている。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

卒園児の引継ぎは、小学校によって電話と対面で行った。

対面の方が、子どもの様子を詳しく伝える事が出来た。

II. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	2名	4名	0名	0名	0名	0名	2名	4名	4名	2名	0名	20名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：8名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒ 計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒ 計12回実施済み 参加者延べ人数												
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒ 計12回実施済み 参加者延べ人数												
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：わらび公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	2名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	12名

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年9月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：全職員対象

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：8月25日
アンケート回収率：100%

(省察) ほとんどの保護者は、保育園で出来るようになった事が嬉しい等の子どもの成長を喜んでいる記述が多かった。一方で、保育者の質が低下、保育士数の減少等というご指摘もあり、こちらは急ぎ改善していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 蕨北町ルーム 施設長 前橋 佳代子